

令和元年第3回定例会（12月議会）

## 農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

**当日配付分**

令和元年12月9日

農 林 水 産 部

# 目 次

1	日米貿易協定とTPP11を合わせた本県農林水産物の 生産額への影響について〔農林政策課〕	1
2	令和2年産米の「生産の目安」について〔水田総合利用課〕	2
3	日本一を目指す品目の生産・販売状況について〔園芸振興課〕	4
4	今期のハタハタの漁獲状況について〔水産漁港課〕	6

# 1 日米貿易協定とTPP11を合わせた 本県農林水産物の生産額への影響について

農林政策課

国が公表した「農林水産物の生産額への影響について」における試算方法を準用し、本県の農林水産物の生産額への影響を試算すると、35～42億円の減少と算出される。

対象品目	生産減少額		【参考】 日米貿易協定 による減少額 (最大値)	
	全国 (国試算)	秋田県 (県試算)		
農産物	米	0億円	0億円	除外
	小麦	約 65億円	約 0.1億円	約 0.0億円
	牛肉	約 393億円 ～ 約 786億円	約 2.3億円 ～ 約 4.7億円	約 2.4億円
	豚肉	約 148億円 ～ 約 296億円	約 4.4億円 ～ 約 8.8億円	約 5.7億円
	牛乳・乳製品	約 182億円 ～ 約 276億円	約 0.1億円 ～ 約 0.2億円	約 0.2億円
	りんご	約 3億円 ～ 約 7億円	約 0.1億円 ～ 約 0.3億円	約 0.3億円
	鶏肉	約 16億円 ～ 約 32億円	0億円	0億円
	鶏卵	約 24億円 ～ 約 48億円	約 0.4億円 ～ 約 0.7億円	約 0.7億円
	その他 (砂糖・かんきつ類等)	約 83億円 ～ 約 109億円	0億円	0億円
	農産物計	約 914億円 ～ 約1,619億円	約 7.3億円 ～ 約14.6億円	約 9.3億円
林産物 (合板等)	約 243億円	約27.0億円	除外	
水産物	約 57億円 ～ 約 114億円	約 0.1億円 ～ 約 0.2億円	除外	
農林水産物合計	約1,214億円 ～ 約1,976億円	約34.5億円 ～ 約41.8億円	約 9.3億円	

※端数処理の関係で、それぞれの数値の計と合計欄が一致しないことがある。

〈農林水産省の試算方法〉

- ・ 試算対象品目は、関税率10%以上かつ国内生産額10億円以上の品目である19品目の農産物、14品目の林水産物。
- ・ 関税等が削減あるいは撤廃される品目については、原則として、輸入品と競合する部分は最大で関税削減相当分の価格が低下し、競合しない部分は最大でその価格低下率の1/2の割合で価格が低下すると試算。
- ・ 米については、現行の国家貿易制度や関税率を維持することから、国家貿易以外の輸入の増大は見込み難いことに加え、国別枠の輸入量に相当する国産米を政府が備蓄米として買い入れることから、国産主食用米のこれまでの生産量や農家所得に影響は見込み難いとした。

## 2 令和2年産米の「生産の目安」について

水田総合利用課

### 1 令和元年産米の状況

- 「生産の目安」は、前年産と同水準の40.7万トンであったが、作柄に恵まれたこともあり、作付面積は概ね前年並みながら、収穫量は前年比2.9万トン増の44.9万トンと見込まれる。
- 取引の確実性を高めるため、集荷業者に対し、事前契約の早期締結を働きかけた結果、6月末時点の締結数量が、30年産米の4.8万トンから、9.5万トンへと大幅に拡大した。

### 2 2年産米の「生産の目安」

- 11月20日に国が公表した2年産米の全国生産量が、前年の718～726万トンを下回る708～717万トンとなったことを受け、県農業再生協議会では、12月5日の臨時総会において、2年産米の県全体の「生産の目安」を決定し、各地域農業再生協議会に提示した。
- 「生産の目安」は、国の需給見通しを踏まえつつ、30年産米の県産米の販路拡大等を考慮し、前年を2,000トン下回る40.5万トン（面積換算で70,680ha）とした。

#### 【「生産の目安」と面積換算値の推移】

	平成30年産米	令和元年産米	令和2年産米	令和2年－令和元年
全 国	7,350,000トン	7,180,000 ～	7,080,000 ～	▲90,000 ～
		7,260,000トン	7,170,000トン	▲100,000トン
秋田県	408,700トン (71,326ha)	407,000トン (71,030ha)	405,000トン (70,680ha)	▲2,000トン (▲350ha)

(括弧内は面積換算値)

### 3 今後の対応

- 各地域農業再生協議会では、県全体の「生産の目安」を受け、水田面積や平年単収、集荷業者の販売計画などを踏まえて、市町村段階の「生産の目安」を設定し、方針作成者や生産者に提示することになっている。
- 県は、各地域農業再生協議会との連携の下、集荷業者に対する研修会等を通じ、事前契約の拡大を図るなど、確実な需要に基づいた米づくりを推進していく。

【参考】2年産米の「生産の目安」の算定方法

本県では、「全国生産量と県産米シェアから算出した数値」と「全国需要量と県産米の適正在庫量から算出した数値」の中間値を基本とし、必要に応じて直近の販売状況を踏まえた補正を行って「生産の目安」を設定する。

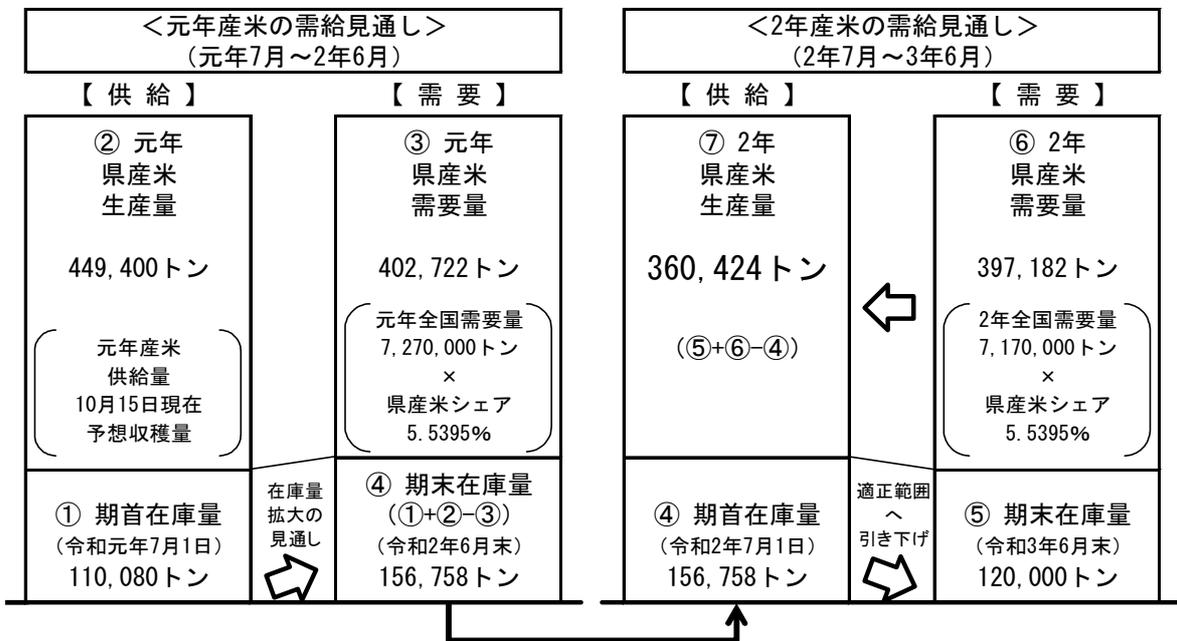
○ 目安A 全国生産量と県産米シェアから算出した数値

2年産米の全国生産量 713万トン×県産米シェア 5.5395% = 394,966トン

※ 全国生産量は708～717万トンの幅を持って設定されているため、中間値の713万トンを使用

○ 目安B 全国需要量と県産米の適正在庫量から算出した数値

元年県産米の予想収穫量、元年産米の全国需要量の推計値から求められる県産米の需要量、適正在庫量から算出した 360,424トン



(6月末の県産米の適正在庫量は、前年同様、10万トン～12万トンに設定)

○ AとBの中間値 (A:394,966トン + B:360,424トン) ÷ 2 = 377,695トン

○ 直近の販売状況を踏まえた補正

- 30年産米の需要量は、29年産米より37,372トン拡大しているが、中間値の算出に当たっては、集荷業者の販路拡大実績が反映されにくくなっている。

※ H30需要量：436,760トン - H29需要量：399,388トン = 37,372トン

- 拡大実績37,372トンのうち、元年産米の早期事前契約割合(75%)に相当する 28,000トン は、確実な需要として、2年産米においても継続した販売が期待できる。
- このため、中間値に継続販売が期待できる数量を加え、「生産の目安」を 405,000トン とする。

### 3 日本一を目指す品目の生産・販売状況について

園芸振興課

#### 1 えだまめ

##### (1) 目標 (R元)

- 京浜中央市場（東京都、横浜市、川崎市）における年間出荷量日本一

##### (2) 生産・販売状況

- 栽培面積は、ほぼ前年並の872haとなった。
- 出荷量は、極早生から晩生まで生育が良好であったことから、前年比約2割増となり、日本一達成が見込まれる。
- 販売単価は、収穫が遅れた関東産と本県産の出荷が重なったことなどから、前年比2割安となり、系統販売額は前年並の12億円となった。

#### 2 ねぎ

##### (1) 目標 (R3)

- 京浜中央市場における夏秋ねぎ（7～12月）出荷量日本一

##### (2) 生産・販売状況（11月20日現在）

- 栽培面積は年々拡大しており、前年比約1割増の369haを見込む。
- 出荷量は、夏ねぎ（7～9月）が春先の少雨により減収したものの、秋ねぎ（10～12月）の生育は概ね順調で、ほぼ前年並である。  
京浜中央市場への出荷量は、茨城県には及ばないものの、青森県を抜いて2位となる見込みである。
- 販売単価は、全国的な不作により高値で推移した前年と比べ約2割安で、系統販売額は前年比約1割減の18億円となっている。

#### 3 しいたけ

##### (1) 目標 (R3)

- 京浜中央市場における年間出荷量、年間販売額、販売単価の日本一（販売三冠王）

##### (2) 生産・販売状況

- 生産規模は前年に比べて1割増加し、約500万菌床となった。
- 出荷量は、岩手県の伸びが本県を上回っていることから、現時点での差が前年より拡大しているが、販売額及び販売単価は、秋田県が上回っている。

【参考 品目ごとの出荷状況(京浜中央市場)】

1 えだまめ

年間出荷量

単位：t

年度	H29	H30	R元 (見込み)	本県との差		
				H29	H30	R元
秋田	1,626	1,450	1,795	-	-	-
群馬	1,883	1,728	1,597	△257	△278	198

※ R元見込みは暫定値

2 ねぎ

7～12月出荷量

単位：t

年度	H29	H30	R元 (見込み)	本県との差		
				H29	H30	R元
秋田	4,173	4,712	4,547	-	-	-
茨城	6,975	6,469	7,025	△2,802	△1,757	△2,478
青森	4,796	4,827	4,260	△623	△115	287

※ R元見込みのうち、11月以降は推計値

3 しいたけ

年間出荷量

単位：t

年度	H29	H30	R元 (見込み)	本県との差		
				H29	H30	R元
秋田	1,888	2,171	2,226	-	-	-
岩手	2,239	2,174	2,250	△351	△3	△24

※ R元見込みのうち、11月以降は推計値

年間販売額

単位：百万円

年度	H29	H30	R元
秋田	2,419	2,591	1,227
岩手	2,167	1,993	923

※ R元は4～10月

販売単価

単位：円/kg

年度	H29	H30	R元
秋田	1,281	1,194	1,146
岩手	965	917	826

※ R元は4～10月

## 4 今期のハタハタの漁獲状況について

水産漁港課

### 1 漁獲枠

- 漁獲枠は、漁業者や市場関係者等で構成される「ハタハタ資源対策協議会」を開催し、県水産振興センターの調査結果等を基に決定している。
- 平成29年漁期までは、推定資源量の4割を漁獲枠としていたが、平成30年漁期からは、将来にわたり資源を維持できる漁獲量のシミュレーションに基づき算定する方式に変更している。
- 今期の漁獲枠は、昨年よりも150トン少ない650トンで、その内訳は、沿岸と沖合各325トンとなっている。  
(昨期は、沿岸480トン、沖合320トン、合計800トン)

### 2 漁獲状況（12月5日現在速報値）

- 沖合は、9月2日から12月5日までの漁獲量が244トンで、漁獲枠325トンに対し75%、前年同期比では89%となっている。
- 沿岸は、昨期より1週間早い11月26日に、男鹿市船川港及び由利本荘市西目で初漁を迎え、現在、全県域で水揚げが続いている。12月5日までの漁獲量は89トンで、漁獲枠325トンの27%となっている。
- 漁獲物の年齢組成は、中型魚（2歳魚）が主体で、これに小型（1歳魚）、大型（3歳魚以上）が混ざっている。

【参考】地域別漁獲量（令和元年12月5日現在速報値）（単位：トン）

地 域		令和元年	平成30年	平成29年
沖 合	県北部	97	114	81
	船 川	78	75	66
	県南部	69	84	32
	計	244	273	179
沿 岸	県北部	45	—	0
	男鹿北	36	0	—
	男鹿南	2	—	—
	県南部	6	—	—
	計	89	0	0
最終実績(漁獲枠)		— ( 650)	612 ( 800)	481 ( 720)
沖 合		— ( 325)	325 ( 320)	241 ( 290)
沿 岸		— ( 325)	287 ( 480)	240 ( 480)

※ 水産振興センター調べ、小数点以下の端数処理により計が一致しない場合がある。

※ 数値の「0」は、四捨五入により「0」となったもの。「—」は、漁獲無しを示す。

